

授業科目(ナンバリング)	相談援助演習 I (DA106) 介護			担当教員	久田 貴幸		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、相談援助に係る知識と技術を理解し、実践的に習得することを目指す。そのために、相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、総合的かつ包括的な援助、また地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げることにより、 <u>対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養い、社会福祉士・介護福祉士に求められる利用者とのコミュニケーション技術について基礎的な内容を理解し、説明することが出来る。</u>							⑤⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した事例において、専門的援助技術を使用できる。				グループワーク 課題レポート	10% 10%	
情報収集、分析力	相談援助事例における具体的な課題について、総合的かつ包括的な援助の方針を考えることができる。				グループワーク 課題レポート	10% 10%	
コミュニケーション力	具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した事例において、専門的援助技術を使用できる。				グループワーク 課題レポート	20% 10%	
協働・課題解決力	高い意欲をもって、個人の活動、グループ討議等の演習に参加できる。				グループワーク	10%	
多様性理解力	具体的な事例を通して、相談援助に係る専門的知識と技術を説明できる。				グループワーク 課題レポート	10% 10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題レポート（40%）では、福祉の課題と専門知識、専門的援助技術に関する正しい理解に基づいて、理論的かつ明快に自分の考えを説明できたかを評価する。文字数不足及び誤字、脱字は減点の対象とし、未提出の場合は単位認定を行わない。グループディスカッションでは、基本的なコミュニケーション技術を活用しながら、有意義なディスカッションに貢献できたかを評価する。なお、不適切な授業態度（教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等）は、発覚した場合に減点の対象となる。なお、発表内容に関しては、授業内にコメントの形でフィードバックを行う。							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。相談援助事例を題材としたグループワークやディスカッションを通して、自己覚知と人の理解について演習する。また、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した体験（ロールプレイング等）による、基本的なコミュニケーション技術や基本的な面接技術及び専門的援助技術への理解を深め実技演習を行う。介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割、会議の意義・目的・方法、記録の意義・目的、介護記録の共有化、話を聞く技法、利用者の感情表現を察する技法（気づき、洞察力）相談、助言、指導、利用者本人と家族の意向の調整を図る機能についての学びを展開する。その都度行うグループワークやディスカッションでは、その結果をプレゼンテーションすることで、学生同士の情報共有を促す。							
教科書・参考書							
教科書：社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士相談援助演習』 中央法規(2015) 参考書：『社会福祉用語辞典』 ミネルヴァ書房 指定図書：社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士相談援助演習』 中央法規(2015)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
グループディスカッションを行うので教科書の該当箇所及び事例を事前に読んでおくこと。グループのメンバーを尊重し合いながら、積極的に発言すること、調べること、書くこと。新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組、映画等、広く社会の出来事に関心をもつことを期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	演習の開始に伴う交流を、グループ・エンカウンターを用いて促進すると同時に、同技法を学修する。	復習：社会福祉の「演習」について理解する
2	望ましい援助者の態度① 自己覚知	社会福祉援助では、援助者自身の自己覚知が必要であるため、利用者の自己決定の重要性を学修する。	復習：自己覚知について振り返りを各自行う。
3	望ましい援助者の態度② 自己覚知	演習プログラムを通じて、援助者として、自分が重要とする価値について気づき、理解する。	復習：演習で学んだ事例の振り返りを各自行う。
4	望ましい援助者の態度③ 自己開示	援助者として必要な自己開示について、演習プログラムを通じて理解する。	復習：演習で学んだ事例の振り返りを各自行う。
5	人の理解①他者の理解・介護を必要とする人とのコミュニケーション①	本人の置かれている状況を理解し、支援関係を構築や意思決定を支援する援助者として必要な他者の理解について、演習プログラムを通じて理解する。	復習：自己と他者との関係性について学びを深める
6	人の理解②クライアントの理解・介護を必要とする人とのコミュニケーション②	面接場面におけるクライアントを理解するコミュニケーションの基本的な技術を習得する内容や方法について演習する。	予習：教科書 28-32 を読む 復習：授業内容を振り返る
7	人の理解③クライアントの理解環境の理解・	ミクロ、マクロ、メゾに分けて人の環境を理解する。	予習：教科書 41p を読む 復習：授業内容を振り返る
8	価値のジレンマ	援助場面において生じる価値のジレンマについて、事例を用いて理解する。	予習：教科書 56-57 を読む 復習：授業内容を振り返る
9	コミュニケーション技術①	援助の為の面接の場で重要な、言語的表現の態度を学修する。利用者の感情表現を察する技法（気づき、洞察力）	復習：演習で学んだ技法を日常の中で意識して実践してみる。
10	コミュニケーション技術②	援助の為の面接の場で重要な、準言語的表現の態度を学修する。利用者の感情表現を察する技法（気づき、洞察力）	復習：演習で学んだ技法を日常の中で意識して実践してみる。
11	コミュニケーション技術③ 介護におけるチームコミュニケーション①	援助の為の面接の場で重要な、非言語的表現の態度を学修する。情報を適切にまとめ、相談、助言、指導について学修する	演習で学んだ技法を日常の中で意識して実践してみる。
12	コミュニケーション技術④ 介護におけるチームコミュニケーション②	事例を用いて、コミュニケーションの演習を行い、グループで発表する。発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理の会議の意義・目的・方法について学修する。	演習で学んだ技法を日常の中で意識して実践してみる。
13	コミュニケーション技術⑤ 介護における家族とのコミュニケーション	演習プログラムを通じて、コミュニケーション技術を高める。利用者本人と家族の意向の調整を図る機能について学ぶ。	演習で学んだ技法を日常の中で意識して実践してみる。
14	社会福祉士の倫理綱領	社会福祉士の倫理綱領を用いて、グループで演習を行う。介護における記録の意義・目的、介護記録の共有化について学ぶ。	予習：教科書 68 p を読む 復習：授業内容を振り返る
15	演習 I のまとめ	受講生自身による振り返りとまとめを行う。 (期限までに課題レポートを作成し提出する：詳細については授業時に指定する)	復習：演習 I で学んだ事項の振り返りを行う。レポート作成に向けて準備をする。